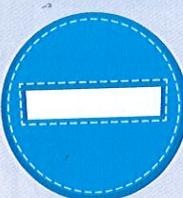
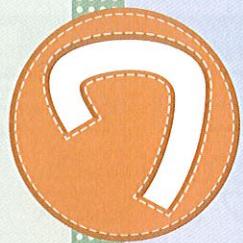


●全国の支援センターを結ぶ



## 全国地域包括・在宅介護支援センター協議会会報

2018.12 Vol.147

### 特集

## 第28回(平成30年度) 全国地域包括・ 在宅介護支援センター 研究大会 概要報告

TOPICS	14
全国地域包括・在介協からのお知らせ	16



## 分科会

### ② 一人暮らし高齢者が地域で住み続けるために



本分科会では、一人暮らし高齢者が地域で住み続けるための、地域住民による支え合いの仕組みと在宅医療のあり方等について考えました。

#### 住民による支え合いの仕組みづくり

菅瀬博文氏は、日常生活における困りごと等を自治会で住民が互いに支え合うため、平成24年にライフサポート三重西を発足させました。

商店街の一角に拠点を設け、「いきいき塾」を行っています。1階のホールでは平日の午前中にいきいき体操を行っています。午後は、出張座禅やスケッチ教室、健康講座、カラオケなど、毎日多様なプログラムを用意しています。2階には喫茶談話室と、カラオケと麻雀を日替わりで行える娯楽室もあり、会員も非会員でも利用できるようにしています。

訪問サービスは、ごみ出しや庭木の剪定、掃除、買い物送迎、通院付き添い等を実施しています。

平成29年度の利用者は、毎月70～80名前後を推移し、訪問サービスも20～30名程度となっています。

菅瀬氏は、参加者が介護予防をモチベーションとしているというより、いきいき塾に行けば誰か話し相手がいる、一緒に楽しむことができる、それにより元気になれる、と日々に話されていることが印象的であると話されました。また、今後の目標として、利用者がなるべく長く一人暮らしを続けられるよう諸課題に対応していきたい、とのことでした。

#### 在宅看取りを支える取り組み

いしが在宅ケアクリニックでは、緩和ケアを中心とした訪問診療による在宅での看取りに取り組んで

#### 報告者

NPO法人ライフサポート三重西 代表理事

菅瀬 博文 氏

医療法人SIRIUS いしが在宅ケアクリニック

門間 文彦 氏

副院長

#### 講師・ファシリテーター

三重県地域包括・在宅介護支援センター協議会 顧問 西元 幸雄 氏

#### 【本誌報告執筆】

全国地域包括・在宅介護支援センター協議会 研修委員会委員 雨宮 洋子  
(大分県 社会福祉法人泰生会 理事長)

います。開院以来9年間で1,838名を在宅で看取り、1年間の在宅看取り数は全国4位となっています。

四日市モデルでは、在宅療養は3段階に分かれています。一次在宅は、主に往診のないかかりつけ医が、二次在宅では一般的な在宅療養支援診療所（以下「在支診」）が担っています。在支診でも往診の限界があるため、三次在宅として往診専門医のいるいしが在宅ケアクリニックが担い、それぞれの医師同士の連携が重要となっています。

実際の訪問診療では、在宅医に在宅看護師が同行し、患者に寄り添います。

門間文彦氏は、独居生活を支える6か条として、「在支診とケアマネジャーが多職種の核となって密接な連携を行い、療養生活を優しくサポートすること」「医療職は介護の仕組みやサービスの知識を、介護職は医療知識をそれぞれ身につけること」「利用者一人ひとりの価値観・生命観に寄り添い、どのような依頼・希望もまずは受け止めようと心がけること」「在支診もすべての支援を行うことはできないと認識すること」「介護職は利用者の「死」を必要以上に恐れないこと」「常に患者の心の声に耳を傾け、居宅に固執しないこと」をあげました。

西元幸雄氏は、地域共生社会の実現に向けては、公的な制度、人、もの、金と地域資源との連携が包括的に推進されるものでなければならないことが、2名の報告から明らかとなったとしました。続けて、地域で安心して一人で死を迎えるためには、地域における在宅医療や介護福祉、住民同士の支え合いがなければならず、地域包括・在宅介護支援センターはそうした共通認識をもちつつ、地域を分析し、様々な関係機関等と連携しながら、政策提言まで行う必要があることを呼びかけました。